

## 第 27 回調査 <2000 年 6 月調査>

### 小規模企業に苦境続く 景況に明るさ点減

第 27 回定点調査の結果がまとまりました。これによると、全般に 4～6 月は、1～3 月期比では悪くなっているものの、前年 4～6 月期と比べると売上・利益・受注とも好転の傾向があらわれ、引き続き 1 2 月までも、この傾向が続くと予測されます。

### 改善みるも業種間・地域間不均衡拡大

特別項目<環境変化の予想と政策>では、にみられるように、最悪不況からは抜けだし好転の兆しが僅かに見られるようになったとする景況感が生まれています。こうした傾向は、「同友会景況調査報告（DOR）」2000年4～6月期でも明らかなように全国的にも確認されていることで「改善はみられますが、業種間・地域間の不均衡が拡大」と特徴づけられます。

業態別にみると製造業が堅調を続けるほか物流・運輸がようやく明るさを見せたほか「OA関連」もDI値プラスの傾向を大きくしています。これに反し建設・不動産は引き続き悪く、流通商業もまだ低迷状況が続いています。

### 小規模企業の逆境強まる

今回の調査で際だつのは、「全般の明るさ」にもかかわらず19名以下規模企業、特に9名以下規模の小企業が全業態を通じて、実績・予測ともDI値マイナスの苦しい状況にあることです。これに対して20名以上規模の企業は、DI値プラスの傾向が目立ち企業間格差があらわれています。

こうした景況感の底には僅かながら企業の収支状況が好転している実態がみてとれます。

### 地域間に格差

もう一つの特徴は、景況感に地域間格差があらわれていることです。市内・北大阪・東大阪・南大阪・府外と区分してみると表4のように市内・東大阪の両区域がDI値プラスで、北大阪・南大阪が厳しい状況にあることがわかります。

採算・経常利益水準			
		4-6月期	7-9月期(予想)
~9人	黒字	27.3%	(13.6%)
	トントン	36.4%	(45.5%)
	赤字	36.4%	(40.9%)
~19人	黒字	41.2%	(23.5%)
	トントン	11.8%	(35.3%)
	赤字	47.1%	(41.2%)
~49人	黒字	56.5%	(56.5%)
	トントン	21.7%	(34.8%)
	赤字	17.4%	( 4.3%)
~99人	黒字	25.0%	(33.3%)
	トントン	50.0%	(33.3%)
	赤字	16.7%	(25.0%)
100人~	黒字	42.9%	(28.6%)
	トントン	14.3%	(57.1%)
	赤字	42.9%	(14.3%)

### 悪化した採算状況

4-6月の採算状況		
	今回調査	(前回調査)
黒字	48.1%	(38.9%)
トントン	29.6%	(27.0%)
赤字	21.0%	(32.5%)

4-6月の資金繰り		
	今回調査	(前回調査)
楽	12.3%	(13.5%)
普通	65.4%	(58.7%)
苦しい	21.0%	(27.0%)

※調査対象 245  
有効回答 81  
調査期間 2000年6月末